

読書感想文コンクールについて(中学年)

今年も碧南市読書感想文コンクール(学校図書館主催)が実施されます。

夏休みに読んだ本の中から、心に残る一冊を選んで、感想文に取り組みましょう。

<読書感想文募集要領>

1 対象図書

- (1) 自由図書 世界名作、日本名作、童話、小説、民話、神話、戯曲、詩歌、歴史、歴史物語、社会科学、自然科学、芸術、スポーツ、伝記、紀行、生活記録、作文集、動物物語、事典類
- (2) 課題図書全国学校図書館の指定した課題図書

2 文字数

1・2年生… 800字(400字詰め原稿用紙 2枚)

3～6年生…1200字(400字詰め原稿用紙 3枚)

※ 題名・氏名は、1枚目の原稿用紙の枠の右側外に書きます。

※ 原稿用紙の1枚目の第1行目から感想文を書き始めます。



3 提出締め切り 各学年の学年便りをご覧ください。

課題図書の紹介

- ・ふみきりペンギン おくはらゆめ 作
- ・バラクラバ・ボーイ ジェニーロブソン 作
- ・たった2℃で…地球の気温上昇がもたらす環境災害 キムファン 文
- ・ねえねえ、なに見てる? ビクターベルモント 絵と文

《3・4年生の読書感想文の書き方》

物語のあらすじにそって順番に書くのではなく、感想文の中心となることを1つか2つ決めてから書いてみましょう。物語の本の場合は、次のようなことを参考に、中心を考えてみましょう。

- ・ いちばん心に残った場面やことがら。
- ・ 好きな登場人物の生き方や考え方、行動について。
- ・ 本を読む前の自分と、読んだあとの自分の気持ちが変わったところ。
- ・ 登場人物がしたことや言ったことのなかで、自分が見習いたいこと。

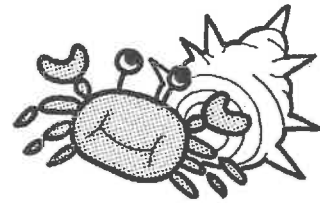


中心にすることが決まったら、感想文を組み立てましょう。

感想文の「はじめ」「なか」「終わり」の3つで組み立てを書くのも一つの書き方です。

「はじめ」

- 本を読んだきっかけを書く。
- 本を読む前に、題名を見て思ったことを書く。
- 本を読む前の自分の気持ちや生活を書く。

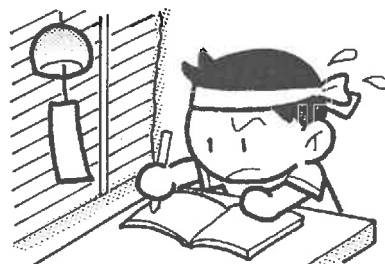


「なか」

- いちばん心に残った場面やことがら。なぜ、心に残ったのか、どのようなことが心に残ったのか説明をする。
- 登場人物の生き方や考え方、行動について、見習いたいところを考えて書く。
- 登場人物の生き方や考え方、行動のなかで、好きなところや、自分と似ているところ、ちがっているところを考えて書く。
- ノン・フィクションの場合は、新しく知ったことや、本を読む前に思っていたこととちがっていた内容を書く。
- ノン・フィクションの場合は、本をまねて、実際に自分で体験してみた感想を書くといよい。

「終わり」

- 本を読む前と後では、自分の考え方が、どのように変わったか。
- 本を読んで、心からさげびたかったこと。
- 本から学んだことを、自分の生活のなかに、どのように生かしていくか。



読書感想文コンクールについて(高学年)

今年も碧南市読書感想文コンクール(学校図書館主催)が実施されます。

夏休みに読んだ本の中から、心に残る一冊を選んで、感想文に取り組みましょう。

<読書感想文募集要領>

1 対象図書

(1) 自由図書 世界名作、日本名作、童話、小説、民話、神話、戯曲、詩歌、歴史、歴史物語、社会科学、自然科学、芸術、スポーツ、伝記、紀行、生活記録、作文集、動物物語、事典類

(2) 課題図書 全国学校図書館の指定した課題図書

2 文字数

1・2年生… 800字(400字詰め原稿用紙 2枚)

3～6年生…1200字(400字詰め原稿用紙 3枚)

※ 題名・氏名は、1枚目の原稿用紙の枠の右側外に書きます。

※ 原稿用紙の1枚目の第1行目から感想文を書き始めます。



3 提出締め切り 各学年の学年便りをご覧ください。

課題図書の紹介

- ・ぼくの色、見つけた！ 志津栄子 作
- ・森に帰らなかったカラス ジーンウィリス 作
- ・マナティーがいた夏 エヴァングリフィス 作
- ・とびたて！みんなのドラゴン オザワ部長 著

≪5・6年生の読書感想文の書き方≫

中学年までの読書感想文では、自分の素直な感想を書いているものが多いですが、小学校5・6年生では、本の主題や、作者が最もうったえたことについて考えて感想文を書くことよいと思います。本には、「平和」「環境を守る努力」「困難にうちかつ生き方」「人と人とのつながり」など、作者が言いたかったことがあるはずです。主題や、作者がうったえたことについて、自分なりに考えたことを自分の主張点とします。自分の主張点を決めたあと、感想文の大まかな文章構成を考えましょう。「序論」「本論」「結論」という三つのまとまりで考えていくとよいでしょう。

「序論」

「序論」は、感想文を読む人の興味をひく印象的な書き出しをくふうしてみましょう。自分が一番言いたかったことを結論の部分だけに書くのではなく、序論に書くのもいいです。最初に自分の主張点を書いて、あとから説明していく書き方です。そして、「結論」部分で、もう一度主張点を述べます。また、本を読む前の自分の考え方や、主人公とのちがいについて書いてみるのもよいでしょう。

- 自分の主張点。
- 本を読む前の自分の気持ちや生活。
- 本を読む前に、その本のテーマについて考えていたことや自分の経験。
- たとえば、戦争をテーマにした本なら、本を読む前までは、戦争についてどう思っていたか。

「本論」

「本論」では、自分の主張点をくわしく説明したり、自分の考えを深くほりさげたりしていきます。自分の経験をおりまぜて書いていくのもよいでしょう。このとき、経験文が長くなりすぎないように気をつけてください。

- 作者が最も言いたかったこと(本の主題)は何か、考えたことを書く。
- 作者の考えと、自分の考えを比べて、共感できるところ、または、「ちがう！」と思うところを書く。
- 登場人物の生き方や考え方、言ったこと、行動の中で、好きなところや自分と似ているところ、ちがっているところを考えて書く。このとき、自分の経験をおりこんで書く。
- 登場人物の生き方、考え方、言ったこと、行動のなかで、自分の生活や生き方に取り入れていきたいところを書く。
- 登場人物がしたことや言ったことを少し引用して、自分の考えを書く。

「結論」

「結論」部分では、自分が一番主張したかったことを書きます。本を読んだあと、自分の考え方や行動がどう変わったかということを書くのもよいでしょう。本から得たことを、今後の生活にどう役立てていくかということや、さらにくわしく知りたいこと、新たな課題について書くのもよいでしょう。

- 自分の主張点。このとき、序論で書いた「自分の主張点」より、少しくわしく書く。
- 本を読んだあと、自分の考えや行動がどう変わったか。
- 本から得たことを、今後の生活にどう役立てていくか。
- さらにくわしく知りたいこと。
- 新たな課題。
- 感想文を書いた本と関連して、次に読みたい本。

